

# アジア太平洋青少年相互理解推進プログラム

日本を含めたアジア太平洋の6か国の高校生が、対話型ワークショップやModel UNESCOなどの協働型学習を行うアジア太平洋青少年相互理解推進プログラムに、模擬国連チームより、厚木高校の1年生1名が選ばれました！！（全国で25名の内の1人、快挙！！）

プログラムスケジュールは以下の通りです。

8/3(木)	開会式・交流会
8/4(金)	第1回 対話型ワークショップ(オンライン)
8/7(月)	第2回 対話型ワークショップ(オンライン)
8/8(火)	第3回 対話型ワークショップ(オンライン)
9/3(日)	Model UNESCO(オンライン)
9/9(土)	リフレクション・閉会式(対面)

プログラムは進行・ディスカッション全て英語で行われ、インド・韓国・タイ・モンゴル・ベトナムの高校生とグループやペアを組んで取り組みます。多様なバックグラウンドを持つ参加者同士で明確な答えのない問いを考え抜くことで、将来、地球的な課題解決に臨む意欲や問題解決能力を養うことを目的としているそうです。



この写真は8月4日(金)に行われた対話型ワークショップの様子です。プログラムの最初こそ、慣れない英語でのやり取りに四苦八苦している様子でしたが、司会進行の方の指示を理解し、数名のグループに割り振られた後でも、積極的に話したり、相手の話を聞いて質問したり、真剣にかつ笑顔を忘れずに取り組んでいたのが印象的でした。

9月4日はいよいよModel UNESCOの日！トピックは『世界遺産の保護について』です。国際会議を模して、アジアの高校生が話し合いを通じて草案を作成します。この日はそう、文化祭でした。午前中で文化祭を切り上げ、1人会議室で、12時半から19時までの長時間のオンライン模擬国連に取り組む彼を、学年の先生も、クラスのみみんなも応援していました！！

世界遺産保護という問題に対し、それぞれの国の国益、さらに世界全体の国際益を守るために、各国大使となって話し合いが行われます。もちろん全て英語です。論点は、気候変動による被害への対処、観光公害など多岐にわたり、様々な提案や議論が行われました。英語が堪能なメンバーに助けられながらも、草案の完成に向けて果敢に自分の意見を伝える彼は、これ以前のプログラムを経て少し自信を付けているように見えました。

プログラムの最終日は9月9日に行われた、対面でのリフレクション・閉会式でした。約1ヶ月間オンラインで様々なプログラムに取り組んできた仲間が、東京のJICA市ヶ谷ビルに集い、海外のメンバーはオンラインで参加しました。集合早々にお互いを労う参加者たち。あっという間に打ち解けて、休憩時間や会議終了後には連絡先を交換したり、写真を楽しそうに撮っていました。普段の学校生活では知り合えない交友関係ができるのも、このようなプログラムの大きな意義かと思います＼(^o^)/



プログラムを終えた、彼の感想の一部です。  
「アジア在住の高校生との協働と聞いていたため、英語力は大差ないと思っていた矢先、最初の活動では大きな衝撃を受けました。そこにはとても流暢に話す高校生の姿があって、母国語のように英語を操っていたからです。(途中省略)リスニングテストとはわけが違う、生きた英語を肌で感じることとなりました。(途中省略)同じグループのタイ人の子と仲良くなり、休日には一緒に英語で話しながらオンラインゲームで遊びました。その友達は日本語も学んでおり、日本に興味を持ってくれたことに嬉しさを感じました。(途中省略)このプログラムは私の英語学習意欲を思う存分に掻き立ててくれました。最後に、このプログラムに私が参加するにあたってサポートをしてくれた周りの方々に感謝したいです。」

*Thanks all for giving me great opportunities!*

かなりチャレンジングなプログラムでしたが、このプログラムを通じて間違いなく視野が広がり、将来につながる刺激を受けたようです。今の高校生が社会のリーダーとなる頃には、今以上に地球規模で取り組まなければならない問題が深刻化しているでしょう。簡単に答えが見つからない問題を解決するためには、国際的な協力と強力なリーダーシップが不可欠です。今回の参加者を見ていると、この中からそのような人材が出てきてくれるのではないかという期待で一杯になりました。

彼の活躍が来年も後輩に引き継がれていくことを願っています！